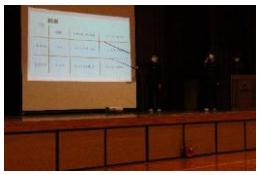
令和3年度　県立学校プロジェクト学習推進事業

実施報告書 【重点課題推進校用】

学校番号	36
学校名	富山県立砺波高等学校

重点課題		探究的・科学的な思考力を高める取組
課題設定の趣旨		本校では、中長期ビジョンの一つに「地域社会のリーダーを育成すること」を掲げている。そのためには、生徒が主体的に取り組む姿勢を身に着け、思考力や判断力、表現力を養う必要がある。2年次の「総合的な探究の時間」（2時間）において、生徒は3～5人の班に分かれて、実習・調査をして研究活動を行った。
中長期ビジョンを実現するための今後の重点事項		コロナ禍の影響により県外での実習・調査に代わり、文3型では砺波市を中心に実習・調査を行った。地域に密着した課題に取り組む中で市役所と連携ができ、市長へのプレゼンテーションを行うことができた。幾つかの研究テーマについては、次年度も続けて実証していく必要性がある。しかし、課題研究は2学年で取り組むため、現1年生への課題研究の引継ぎが重要となってくる。同様に理系でも継続した研究が望まれる。また、大学や企業連携なども行い、生徒が主体的に取り組み、思考力や判断力、表現力を身につけ、地域社会に貢献できるように取り組みたい。
実施内容 （具体的に記入する）		①課題研究開始：「課題研究Start Book」を用いて、課題研究の土台作りを行う。 ②研究計画発表会（7/26）：班の研究テーマおよび研究計画について質疑応答を行う。 ③調査・研究の実施：研究テーマに沿い実験やアンケート調査、聞き取り調査などを行う。 ④中間報告会（10/21）：調査・研究の方法の妥当性などを再興し、研究を深める。 ⑤課題研究発表会：外部講師や市役所職員、本校の教員、1・2年生全員が参加。聴衆に伝わるように表現力や発信力の向上が見られ、外部の方々からの評価を受けることで、満足度も高まった。 ⑥課題研究の振り返り、まとめ作業：自己評価を行うことで、自己理解が深まり次の目標が定まった。 課題研究の様子　　中間発表会　　課題研究発表会 
取組の成果 （プロジェクト学習推進の観点から）		①文系・理系の枠に囚われず、生徒自らが興味関心のある課題を見つけ問いを立てると同時に、その課題についてどのような調査・研究でアプローチをすべきかを考えた。その後、文系・理系の垣根を超えて班を作成し、班内で研究課題を協議し、研究計画を作成した。研究計画発表会や中間発表会で、外部講師や教員、他の生徒からの意見や助言を受けて、テーマや研究方法の妥当性を再考し、積極的に実験を行ったりアンケートや聞き取り調査を行うなど、主体的に研究に取り組む様子が見られた。 ②班内での話し合いや研究成果のまとめ作業を通じてコミュニケーション能力を図った。また、タブレットを使って情報を集めるだけでなく、実験データをまとめたり、アンケートを実施し結果を編集したりした。課題研究発表会に向けて聴衆にどのように伝えたらよいのかを考え、ポスターやパワーポイントを作成した。タブレットを使って共同編集しつつ、発信力を高めるため写真データやCMなどの動画を作成するなど、各班が工夫を凝らして取り組んだ。 ③課題研究の振り返りを班だけでなく個人でも行うことで、自己理解を深め、自己有用感を得られた。生徒の中には、課題研究で取り組んだ内容を大学でも研究したいと思えたり、現地調査や市長へのプレゼンテーションで自分たち高校生でもできることがあると感じられたりする生徒もいた。生徒が将来のビジョンを描くきっかけとなり、キャリア形成の一助となった。
対象者（学年・人数など）		1学年189名　2学年198名　全教職員
実施実績	4月	「課題研究メソッド」を使用した探究活動の土台づくり　4/26講師による講演会「課題研究とは」
	5月	研究テーマに関する知識を広げ整理する方法
	6月	研究テーマの設定、リサーチクエスチョンの設定、班設定
	7月	班の研究テーマの設定、研究計画発表会、市の出前講座参加
	8月	校内での臨海実習（理3型）、地域調査（文3型）、調査・研究活動の開始（班活動）
	9月	調査・研究活動（班活動）
	10月	調査・研究活動（班活動）、10/4講師による講「調査研究、プレゼンテーションの方法」、10/21中間発表会、研究成果のまとめ
	11月	研究成果のまとめ、11/20課題研究発表会、1学年：見学、タウンミーティングへの参加、課題研究の振り返り（班活動）
	12月	砺波市役所での市長へのプレゼンテーション、課題研究の振り返り（個人）
	1月	課題研究のまとめ（個人）
	2月	課題研究のまとめ（個人）
	3月	課題研究のまとめ（冊子づくり）